

# スキルアップ通信 VOL.165

## 88 歳の「おばあちゃん企業家」が大活躍…瀬戸内海の「小さな島」発

### マーマレードが世界大会入賞を果たすまで

「島の標準語」しか話せない中、手を貸したのは国際的な移住者夫婦

高齢化が進む日本の限界集落が元気になる方法はあるのか。広島県のある島では、地元で生まれ育った女性と移住者が協力し、島で栽培しているレモンやミカンを使ったマーマレードのブランド化に成功した。

#### ■高齢者だらけの島、これからどうする？

瀬戸内海に浮かぶ大崎下島。行政上は工業都市の広島県呉市に属するものの、歴史的には柑橘栽培を柱とする農業地帯として栄えてきた。今は違う。65 歳以上の人口の割合を示す高齢化比率が 7 割に達しており、高齢化スピードで日本の中でも際立つ。人口 1700 人のうち 65 歳未満は 500 人余りにすぎないということだ。島全体が限界集落となって衰退していくしかないのか。どうにかしてコミュニティを維持していく方法はないのか。

#### ■「ルーラル起業家」は 88 歳の今も現役

現状打開のヒントを与えてくれる女性がいる。大崎下島で生まれ育った上神アツカさんだ。88 歳でありながら、現役の柑橘農家であると同時に、高級マーマレードの製造販売を手掛けるルーラル（田舎）起業家でもある。島外から若い人材を呼び込む触媒にもなっている。笑顔を絶やさず、きびきびと動く。米寿を迎えているとはとても見えない。日光が降り注ぐ斜面地の農園に日常的に足を運び、体を動かすことで健康を維持しているのだろう。

#### ■マーマレードの本場に認められた味

かつてレモン栽培で日本一の収穫量を誇り、「黄金の島」とも呼ばれていた大島下島。ここでアツカさんは 60 年以上も特産品の大長レモンなどの柑橘類を栽培し続けている。転機は 2017 年に訪れた。手作りマーマレードが世界大会で高い評価を得たのだ。世界大会とは、マーマレードの本場イギリスで毎年開催される世界大会「ダルメイン世界マーマレードアワー&フェスティバル」のこと。ここでアツカさんは銅賞を勝ち取った。受賞作はデコポンとレモンにウイスキーをブレンドした「ウイスキーブレンドマーマレード」で、世界各地から集まった 2000 点以上のエントリー品の中から選ばれた。

#### ■きっかけは娘の「何かおやつが欲しい！」

今では「Atsuka's Marmalade（アツカのマーマレード）」として瀬戸内の名物土産になっている。広島市で 7 カ国首脳会議（G7 サミット）が開催されると、売上が大きく伸びたという。

24 歳で結婚し、3 人の子どもを育てたアツカさん。「きっかけは子どものおやつなんです」と語る。30 代半ばのころ、子どもから「何かおやつが欲しい！」とせがまれたが、周辺には小売店は一つもなく、手作りでおやつを用意するしかなかった。そこで思い付いた。傷ついて出荷できないミカンを使えばいいのでは！オリジナルの「ミカン飴」を作ってあげたところ、大喜びしてもらえた。

数十年後の 1990 年代後半、島の仲間 2 人と一緒に柑橘ジャムの製造販売をスタート。それからさらに 20 年後、世界マーマレードアワードで快挙を成し遂げたわけだ。

#### ■ブランド価値は 10 年間で 3 倍に

マーマレードの製造販売を本格化するのに合わせて会社をつくったわけではなく、仲のいい人が集まったの加工グループ。詳細な研究記録を取りながら 60 回以上も試作を繰り返し、商品化については、「6 次産業化プランナー」のアドバイスも得ている。10 年前は 500 円前後で販売されていたが現在は 1500 円前後で売

# スキルアップ通信 VOL.165

られている。

## ■島に移住してきた国際派夫婦が助け舟「本場に負けないマーマレードを作って！」

東京から大崎下島に移住してきたご夫婦。イギリス留学経験のある奥様がイギリス留学中に食べた本場のマーマレードのおいしさに感激し、アツカさんに「シトラス（柑橘類）をブレンドしてウイスキーを入れて…本場に負けないマーマレードを作ってください！」と提案。大崎下島は柑橘類の一大生産地なので採り立てのフルーツを使って作れるのはすごいことなのです。

アツカさん、島の仲間 2 人、移住夫婦、6 次産業化プランナー。これこそ共創。

## ■増加する「限界集落」再生のお手本

数年前から孫夫婦が手伝いに来てくれていますが、元気なうちは自分が責任を持ってやります。仮に孫家族が移住し、マーマレード事業を引き継ぐことになったら、限界集落再生のお手本となる。高齢者が事業の価値を高めて若い人材をふるさとに呼び戻す格好になるのだから。孫の他にも、「マーマレード作りを手伝いたい」と言い、都会から移住してきた女性もいる。起点となったのは、島に移住してきた国際派夫婦。地域活性化の決定打はモノではなくヒトだ。 牧野洋（ジャーナリスト） PRESIDENT Woman Online より  
絶滅可能性自治体とは、2050 年までの 30 年間で 20 歳～39 歳の若年女性人口の減少率が 50%を超えると予想される自治体のこと。人口減少や若者の都市部流出や出生率の低下など様々な理由がありますが、高齢化が進む中、アツカさんのように若者にとって魅力的な ふるさとに住む価値を見出せるような協力ができたらと考えさせられます。

### 花粉症と腸内環境

今年の花粉飛散は例年より早く 既に飛散しているようです。また、飛散量は昨年よりの多い傾向との予想。花粉症の方にとってはとても辛い季節ですね。花粉症人口は年々増加していて、日本人のほぼ 2 人に 1 人が花粉症で、特に女性や若い年代で多く見られるようです。近年花粉症と腸内環境には密接な関係があると考えられています。腸は「第二の脳」と呼ばれるほど多くの免疫細胞が存在し、全身の免疫機能に大きな影響を与えています。腸内環境が乱れると、免疫のアレルギー反応が起こりやすくなり、花粉症の症状が悪化する可能性があります。腸内環境が乱れる原因は、食生活の乱れ・ストレス・睡眠不足・抗生物質の使用などがあげられます。腸内環境を整えるには、発酵食品や食物繊維の摂取。生活習慣の改善が重要です。  
・発酵食品…ヨーグルト・キムチ・味噌・納豆等。特に花粉症対策として乳酸菌入りヨーグルトが注目されています。  
・食物繊維…野菜や果物・全粒穀物・海藻等。  
・生活習慣の改善…ストレス軽減・適度な運動・十分な睡眠  
腸内環境を整えることは、花粉症の症状を和らげる一助となる可能性があります。日常の食事や生活習慣を見直し、腸内フローラのバランスを心がけましょう。

### 2025 年 4 月施行 改正育児・介護休業法

2025 年 4 月 1 日と 10 月 1 日の 2 回に分けて改正育児・介護休業法が施行されます。4 月に施行される内容には、就業規則（育児・介護休業規程等）や労使協定の修正が必要なものがありますので、早めに見直されることをお勧めします。

#### ★規則等の修正が必要な改正

#### [子の看護休暇の見直し]

小学校就学の始期に達するまでの子を養育する従業員が取得できる「子の看護休暇」

⇒対象となる子の範囲が**小学校 3 年生が終了するまでに拡大**

休暇の名称変更

「子の看護休暇」⇒「**子の看護等休暇**」に

取得理由増加

病気・けが、予防接種・健康診断⇒追記で

**感染症に伴う学級閉鎖等、入学式・卒園式・入学式**

#### [子の看護休暇・介護休暇の見直し]

子の看護休暇及び介護休暇を取得できる人から

**「継続雇用期間 6 か月未満の従業員」除外が廃止**

#### [所定外労働の免除]

請求可能となる従業員の範囲が、3 歳未満の子を養育する従業員⇒小学校就学前の子に拡大